

高安寺（府中市）

府中市は昭和29年4月1日に府中町・多磨村・西府村の1町2村が合併して誕生したまちです。かつて律令制度のなかでは武蔵国の国府が置かれました。また、鎌倉時代には鎌倉街道、江戸時代には甲州街道の重要な宿場の一つとして繁栄したまちです。

発展のなかで多くの歴史的な彩りのなかにあつたまちだけに、中心部にはそれらの名残りをとどめるような美しい自然と歴史や文化と見どころがたくさんあります。

標高80mほどの小高い丘で南北朝時代、北朝方の足利尊氏と南朝方の新田義興・義宗兄弟が戦った古戦場跡の浅間山などと、ともに足利尊氏が建立した安国寺の一つとして伝えられる高安寺があります。足利氏とゆかりが深い高安寺は、足利尊氏が市川山見性寺

を武蔵国の安国利生の寺として再興したもので、龍門山高安護国禅寺と称し尊氏の法号をとって等持院と号す曹洞宗の古刹です。この寺の崖上には、南側に多摩川から多摩川丘陵を望む要害の地で戦国の世しばしば武将の本陣ともなったと伝えられています。



高安寺



桃源院（佐久市）

桃源院は、長野県東端の佐久市岩尾の地に、天文六年（一五三七年）に岩尾城主第三代岩尾行真公によって、祖父行俊公の三十三回忌並びに第二代城主幸満公の十三回忌にあたり、追薦冥福の為に建立されました。行俊公は、源頼朝に仕え戦功を挙げた小笠原長清を祖となし、文明年中（戦国時代初期）に岩尾邑に城を築きました。開山は、行真公の弟の松岩長伊和尚であります。行俊公の号が桃源であり、

ことから、中国の故事にならぬ、武陵山桃源院と名付けられています。

当時のご本尊は、像丈一尺一寸三分で、鎮護のため城内に安置してあつた延命地藏菩薩でありました。佛工成朝の作であるとされ、認定書によると鎌倉後期か室町初期の作といわれ、胎内に「岩尾家譜」が蔵されておりました。

この延命地藏尊像は、現在も地藏堂に安置されており、その出所由来を大井持光に求めることができます。大井持光は、この佐久の地に幼き永寿丸、後の足利成氏を庇護し、その娘は岩尾城主初代行俊の妻であります。而してそのロマンに魅せられる次第であります。

桃源院へは、長野新幹線佐久平駅よりタクシーで十分です。どうぞ延命地藏さまの御利益にお与かり下さい。

■行事

●毎年5月3日〜5日
八十八桃まつり



桃源院

